

2017年12月10日

## 福音書からのメッセージ

神の子イエス・キリストの福音の初め。  
(マルコによる福音書1章1節)

今週の福音書には、洗礼者ヨハネが登場します。イスラエルの人々は救い主があらわれる前に、旧約の預言者エリヤがやってくると信じていました。洗礼者ヨハネは預言者エリヤを彷彿とさせる恰好をしており、そして救い主が来る前に道を備えるために、また人々に救い主が来る前の準備をさせるために来ました。ですからイエス様のご降誕を前に心を備えようとしているわたしたちにとっても、この箇所はとてもふさわしいといえます。

洗礼者ヨハネは、罪の赦しのための悔い改めの洗礼を宣べ伝えていたとあります。罪という言葉は、聖書によく出てきます。でもその意味は、わたしたちが思い浮かべるものとは違います。罪というと強盗や殺人、詐欺といった、刑法に引かかるようなものを思い浮かべるでしょう。しかし聖書の「罪」の意味は、また違うところにあります。

罪の語源は「的外れ」です。ダーツをする場面を想像してみてください。普通だったらの的をめがけて構えますが、あさっての方向を向いて構えているような姿、それを罪と呼ぶのです。つまり、本当だったら神さまに心も体も向けなければならないのに、まったく違った方を向いてしまっている。それが聖書のいう罪です。

わたしたちは信仰生活の中で、いつも神さまに心に向け、歩んでいるのでしょうか。自分の力だけを信じて、自分の思いだけで歩んでしまい、とんでもない方向に向かってしまうことはないですか。目を自分の足元だけに向けてしまい、日常のちょっとした出来事に恐れ、つまずき、倒れてしまっていないですか。また神さまではなく、周



りの人のことばかり気にしてしまいうことでもあるでしょう。あいつのここがダメだ、こいつはこれだからと、人の批判をすることに一生懸命で、神さまに心が向いていないこともあると思います。そのどれもが、聖書が

いうところの「罪」なのです。

ではわたしたちはどうしたらよいのでしょうか。悔い改めよと洗礼者ヨハネは叫びます。悔い改めとは、「向き直る」ことです。ちょっと角度を変えるくらいのことではありません。グルンとそれこそ180度、向き直って生き方を変えるのです。神さまに向き直り、神さまを見据えて歩いていく。その決意をしなさい。そう生きる者になりなさい。それが今日の聖書のメッセージです。

しかし、そうしたくてもなかなかできない、それがわたしたち人間の姿です。だから神さまは、イエス様をわたしたちの間におくられるのです。わたしたちにはイエス様が必要です。イエス様がわたしたちに関わり、神さまとの間に立ってくださる。そして神さまの方に向き直させてくださる。それこそが福音、グッドニュースなのです。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>